

2016 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	東洋研究所
評価基準 1	理念・目的
点検・評価項目(1)	1-1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
評価の視点	理念・目的の明確化
	設置の主旨や歴史からみた理念・目的の適切性
	個性化・独自性、国際化への対応
点検・評価項目(2)	1-2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(3)	1-3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

1-1	本研究所の起源は 1923 年の帝国議会による「漢学振興ニ関スル建議案」に由来する。この建議の背後にある基本的理念は、①漢学を中心とする東洋学術の研究、②東西文化の融合による新しい文化の創造、をめざすことにあった。この理念を実現する推進母体として、同年に大東文化協会が創設され、協会内の研究部組織として東洋研究部・比較研究部が設立された。これらの研究部は、1953 年に学校法人大東文化大学附属の大東文化研究所に継承された。さらに 1960 年の学園振興計画の一環として、1961 年に法人附属機関から大学附置研究所へ移行し、新たに東洋研究所として発足した。 本研究所の目的は、大東文化大学東洋研究所規程第 2 条 1 項に定められ、「アジアを中心とする人文・社会・自然の科学的調査研究を行ない、ひろく学術の発達に寄与すること」とされている(A1-4 第 2 条 1 項)。さまざまな研究部会を組織し、創設当時の理念・目的は今日の活動に反映されている。
1-2	理念・目的と活動は、東洋研究所ホームページを通じて公開されており、研究所と大学の構成員および社会に向けて公表・周知が図られている(B1-8)。1984 年より現在まで毎年 2 回、研究所の活動を紹介する『大東文化大学東洋研究所報』を発行し、学内および学外の関係機関、関係者に配布している(A1-18)。
1-3	研究所が行う研究活動等については管理委員会で定期的に点検し、理念・目的の適切性については毎年度の自己点検・評価活動において検証している(B1-16)。

【効果が上がっている事項】

1-1	
1-2	
1-3	

【改善すべき事項】

1-1	大東文化大学東洋研究所規程第 2 条 1 項に定められた「自然」科学への調査研究については、東洋研究所設立以来一度も専任研究員が配属されたことも、研究部会が設けられたこともなく、有名無実の状況が続いているため、目的達成のために専任研究員の補充および研究部会の新設を実行するか、現状に即して規程第 2 条 1 項の文面を改定しなくてはならない。
1-2	『大東文化大学東洋研究所要覧』が 2001 年 10 月に作成されて以降改訂されていないため、随時日本語版・英語版の改訂を行い、研究員や学内・学外等関係各方面への周知・公表に役立てたい。
1-3	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A1-1	大東文化大学学則
A1-4	大東文化大学東洋研究所規程
A1-18	大東文化大学東洋研究所報 No.63、64
B1-5	大学ホームページ（建学の精神・教育の理念） http://www.daito.ac.jp/information/about/idea.html
	大東文化大学の基準別基本方針 http://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy.html
B1-6	大学ホームページ（情報公開） http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html
B1-8	東洋研究所ホームページ（東洋研究所概要） http://www.daito.ac.jp/research/laboratory/oriental/information/philosophy.html
B1-16	大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動） http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html

B1-22 大学データ集

<大学基礎データ>

d1-表1 全学の設置学部・学科・大学院研究科等（2016年4月1日現在）

〔追加資料〕

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	1-1 本研究所の目的として大東文化大学東洋研究所規程第2条1項に定められた「自然」科学への調査研究と現状との矛盾を解消する。	目的達成のために専任研究員の補充および研究部会の新設を実行する。もしくは、現状に即して規程第2条1項の文面を改定する。	→		C		
	1-2 学内外に対して、東洋研究所の理念・目的の周知を図る。	『大東文化大学東洋研究所要覧』【日本語版・英語版】を作成、各関係部署・研究委総会・管理委員会において配付する。	→		C		
	1-2 理念・目的について所内会議、管理委員会において、議題として取り上げ、『所報』、『東洋研究』に掲載する内容を検討し、2014年度からの掲載を目指す。	所内会議議事録、管理委員会議事録及び『所報』、『東洋研究』への掲載。	→		S		
14年度 目標	1-2 学内外に対して、東洋研究所の理念・目的の周知を図る。	・東洋研究所所報に東洋研究所理念・目的を掲載する。 ・『大東文化大学東洋研究所要覧』【日本語版・英語版】の作成準備を行う。	→	A			
	1-2 所内会議、管理委員会において『所報』、『東洋研究』への掲載文の作成。	所内会議議事録、管理委員会議事録及び『所報』、『東洋研究』への掲載。	→	A			
	1-2 『大東文化大学東洋研究所要覧』作成の原稿整理と英文化の準備。	原稿完成に伴う印刷費予算の計上。	→	C			
15年度 目標	1-1 本研究所の目的として大東文化大学東洋研究所規程第2条1項に定められた「自然」科学への調査研究について、所内会議・管理委員会において議題として取り上げ、現状との矛盾解消のための打開策を講じる。	所内会議・管理委員会において、規程第2条1項の文面のまま目的を達成するか、現状に即して規程第2条1項の文面を改定するか、方針を定める。	→		B		
	1-2 学内外に対して、東洋研究所の理念・目的の周知を図る。	『大東文化大学東洋研究所要覧』【日本語版・英語版】の作成準備を行う。	→		B		
	1-2 『大東文化大学東洋研究所要覧』作成の原稿整理と英文化の準備。	原稿完成に伴う印刷費予算の計上。	→		C		
16年度 目標	1-1 本研究所の目的として大東文化大学東洋研究所規程第2条1項に記された「自然」を削除するか、同時に「人文・社会」も削除して「アジアを中心とする科学的調査研究を行ない、ひろく学術の発達に寄与すること」等の文面に改定するかを、所内会議・管理委員会において議題として取り上げ、今後の東洋研究所の活動に対して相応しい目的を設定する。	所内会議・管理委員会において、今後の東洋研究所の活動に対して相応しい目的を設定する。	→			B	

大学附置研究所

	1-2 学内外に対して、東洋研究所の理念・目的の周知を図る。	『大東文化大学東洋研究所要覧』【日本語版・英語版】の作成準備を行う。	→			B		
	1-2 『大東文化大学東洋研究所要覧』作成の原稿整理と英文化の準備。	原稿完成に伴う印刷費予算の計上。	→			C		